

小口巡回共同回収

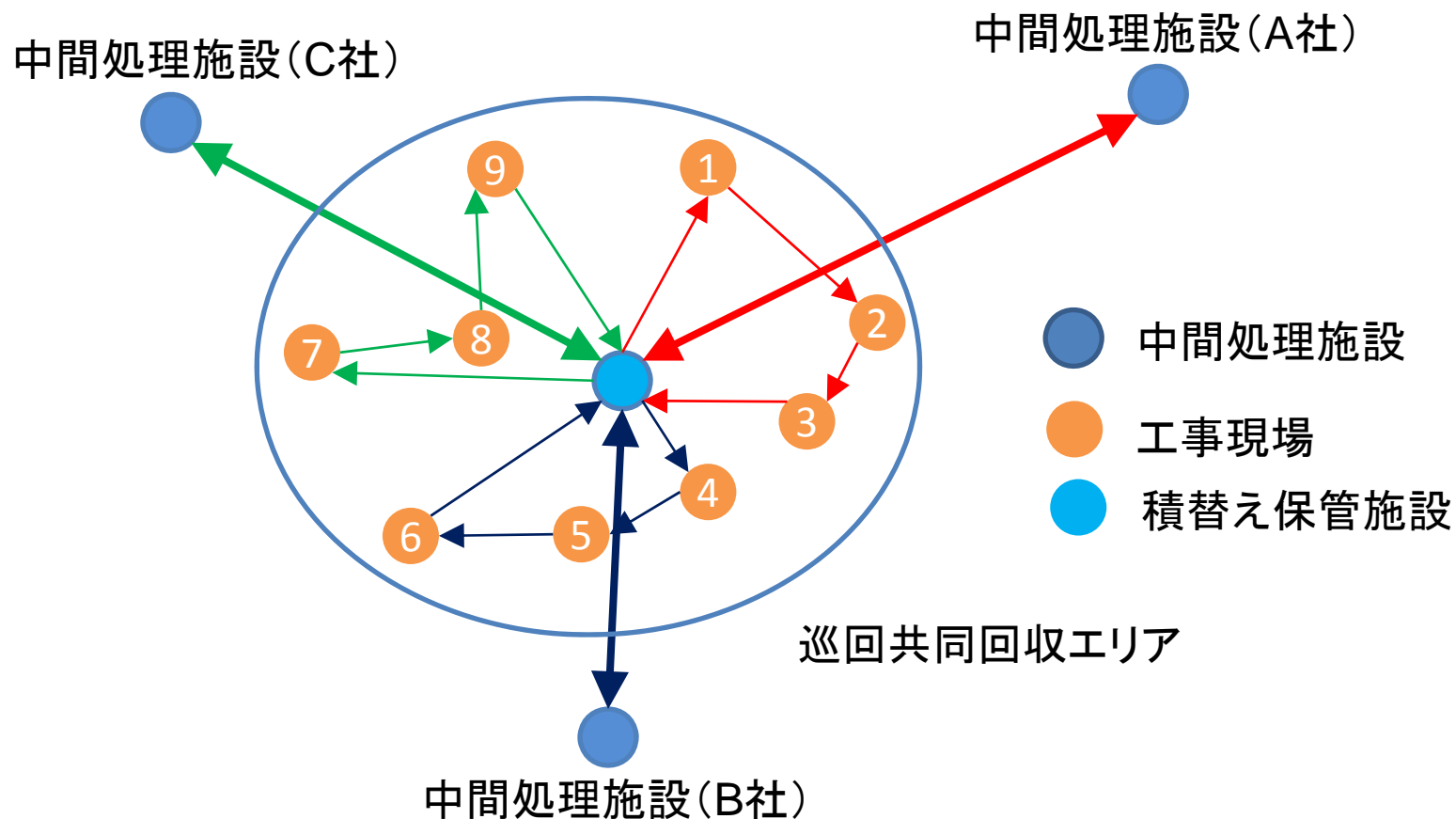
目次

- 1.小口巡回共同回収とは
- 2.小口巡回共同回収の効果
- 3.小口巡回共同回収の課題
- 4.課題解決のための取組み

1.小口巡回共同回収とは

一定のエリアにある複数の工事現場を複数の収集運搬業者の車両が共同で巡回して廃棄物を回収。

廃棄物は積替え保管施設に一時保管し、大型車に積替えて、各業者の中間処理施設に輸送。



小口巡回共同回収の可能性

工事の捕捉率、直行型回収との効果の比較等の課題があるため、小口巡回共同回収の効果が見込まれる対象は以下のとおり
(過去の協議会検討成果より)

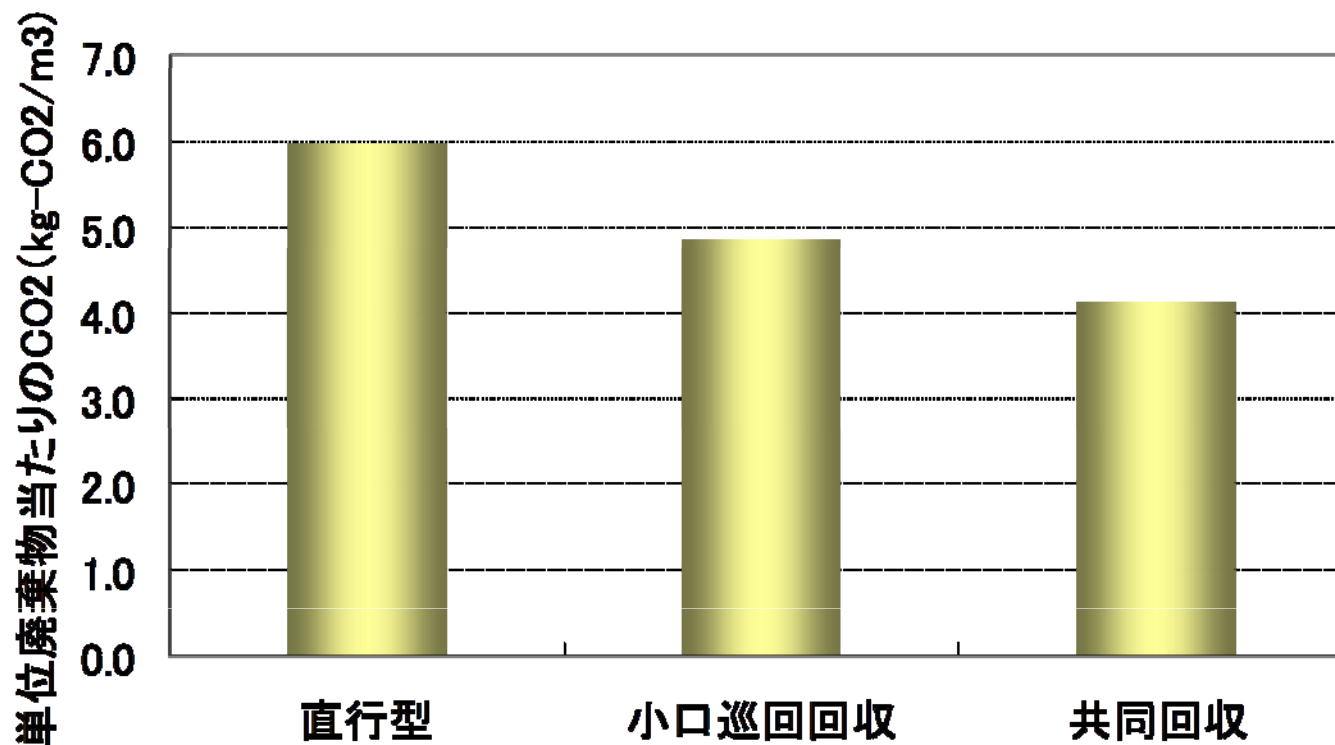
- ・延床面積5,000m²未満の新築工事
- ・積替え保管施設から概ね10～20kmの範囲に工事現場が複数
- ・各工事現場の搬出廃棄物量が1m³以下

2.小口巡回共同回収の効果(試算)

収集運搬業者が3社共同で小口巡回回収を実施したと仮定して、小口巡回共同回収の効果はCO2排出量によって試算。

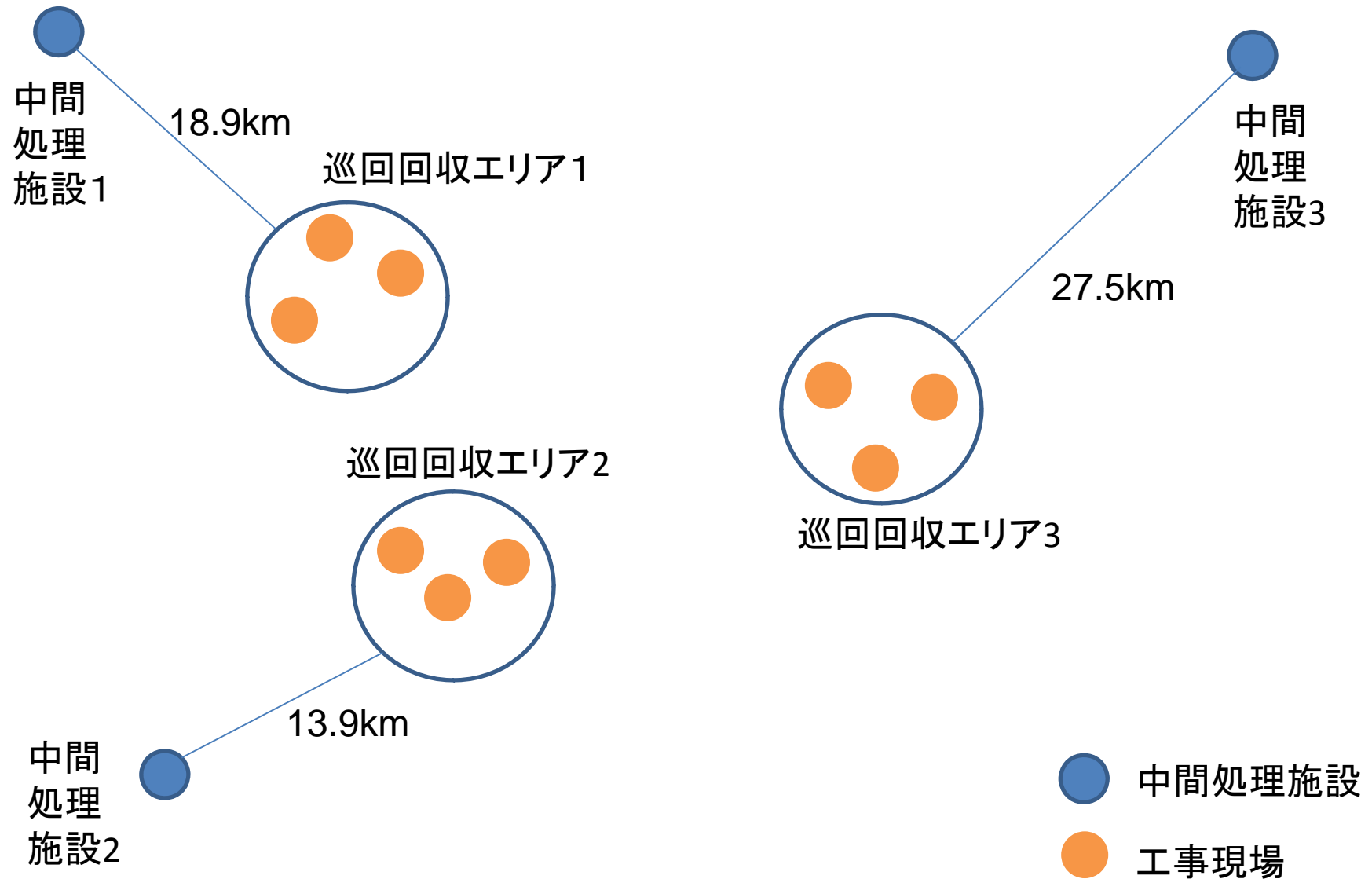
小口巡回共同回収によって、CO2排出量が

- ・直行型より**30%削減** ($6.0\text{kg-CO}_2/\text{m}^3 \rightarrow 4.1\text{kg-CO}_2/\text{m}^3$)
- ・小口巡回回収より**15%削減** ($4.8\text{kg-CO}_2/\text{m}^3 \rightarrow 4.1\text{kg-CO}_2/\text{m}^3$)

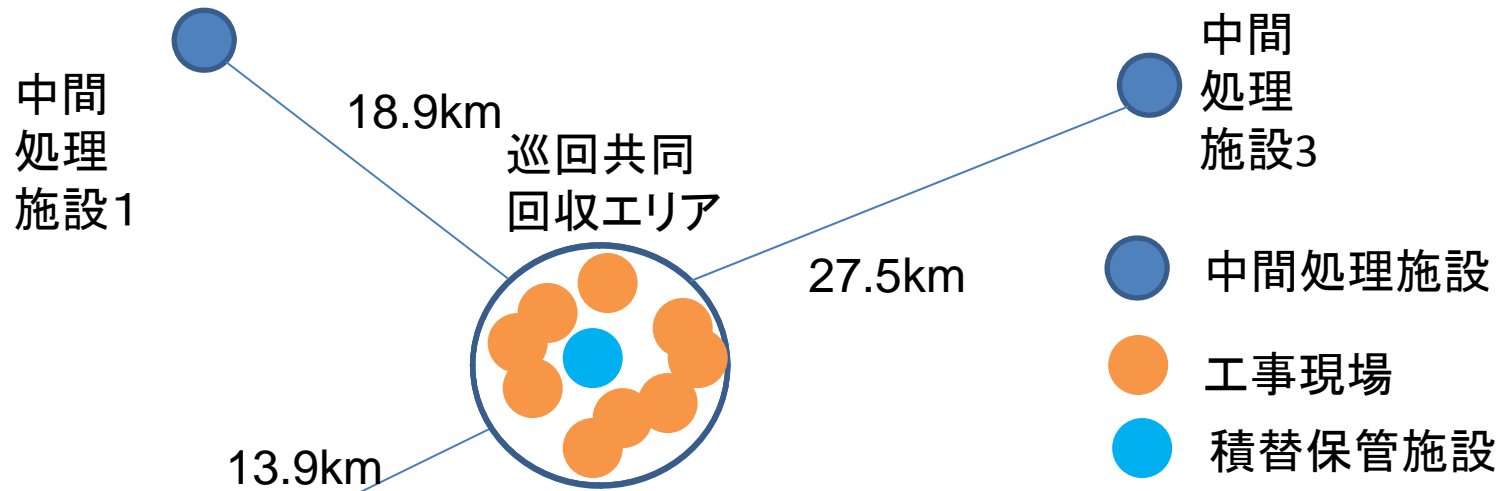


試算方法

小口巡回回収の実測データをもとに巡回回収エリアを設定。



実例データの巡回回収エリアを重ね合わせ、巡回共同回収エリアを作成し、エリアの中心に積替保管施設を配置し、効果を計算



エリア内工事現場数		21現場
1現場あたりの発生廃棄物量		4.7m³
現場密度		2現場/150km²
平均工事間距離		9.7km
使用車両	巡回共同回収エリア内	6t車
	積替え保管施設と中間処理施設間	17t車

3.小口巡回共同回収の課題

小口巡回共同回収を実施するためには、以下の問題点が挙げられている。(過去の協議会議事録より)

- 収集運搬業者間で配車計画や収集価格など、一定のルールを合意することが必要
- 積替保管施設の整備など新たな投資が必要

4.課題解決のための取組み

まずは小口巡回回収の普及を目指し、小口巡回共同回収の可能性を探る。